

第11回神奈川県美術展



第11回神奈川県美術展

コンクール部門・招待部門

日本画

洋画

水彩画

版画

彫刻

立体造形

昭和51年 2月25日 - 3月9日

コンクール部門・招待部門

工芸

書

写真

昭和51年 3月12日 - 3月25日

会場

神奈川県立 県民ホール

主催

神奈川県美術展委員会

神奈川県教育委員会

神奈川県

あいさつ

第11回神奈川県美術展の開催にあたって一言御挨拶申し上げます。

県内の文化の振興と新人作家の育成を目的とした本展は、昭和41年に県内美術関係者の熱意と努力とによって誕生したものであります。

当初は絵画・彫刻部門の公募展と招待展で発足いたしましたが、その後工芸・書・写真部門を加えて県内最大規模の美術展に発展してまいりました。

また年々開催ごとに応募点数も増え、質的にも向上し、成果をあげてまいりましたことは、大方の識者の御承知のところであり、第11回展も県民ホールのギャラリーにて盛大に開催できますことは、関係各位の絶大なる御協力のたまものと深く感謝いたすところでございます。

おかげをもちまして、第11回展公募展におきましては応募点数、人数とも本展の最高を記録し、また内容的にも一層の充実を加え、県民各層に美術愛好の巾広い広がりを示し、本展もすっかり定着したものと御同慶にたえません。

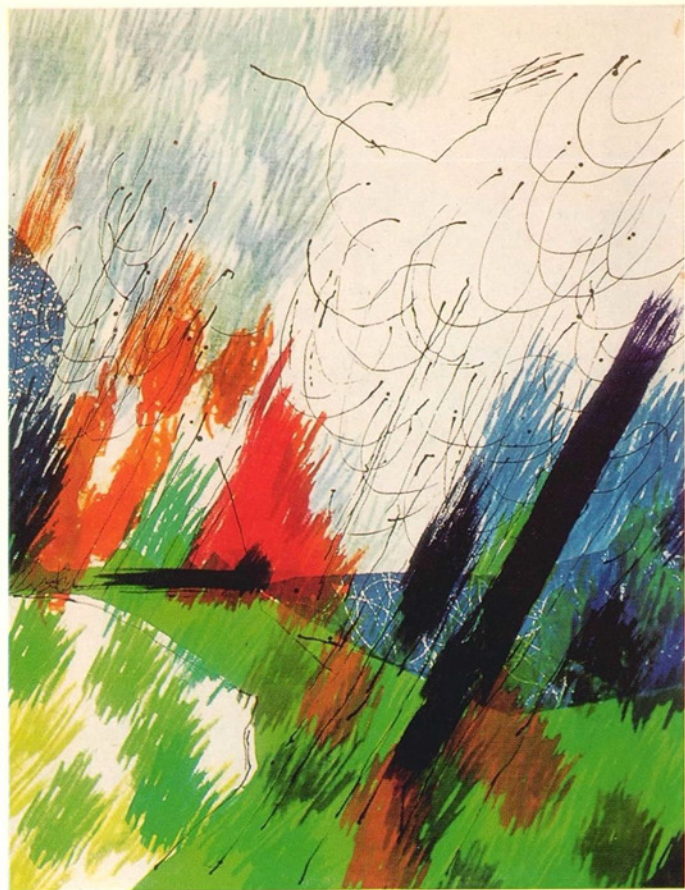
終りに県民の文化的創造活動が高まりゆく今日、本展開催の意義は、きわめて深いものがあると確信し、私ども関係者は、引き続き本展発展のため鋭意努力してまいる所存でありますので、今後とも皆様の一層の御協力をお願い申し上げます。

昭和51年2月25日

神奈川県美術展委員会

委員長 穴水清彦

コンクール部門





大 賞 鎌田恵子 Lost my way (工芸)



準大賞 泉谷淑夫 変容 (洋画)



準大賞 金子典義 母と子<甘えの構造> (彫刻)



特選 市川保道 花 映 (日本画)



美術奨学会賞 前本利彦 Fall (日本画)



特選 宮田翁輔 あやつり人形たち (洋画)



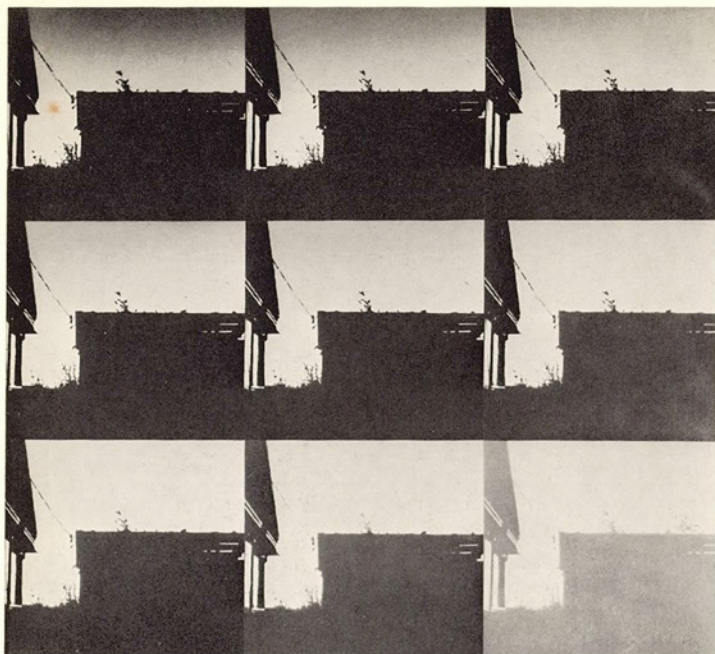
県立近代美術館賞 男谷省吾 砂漠のドンキホーテ (洋画)



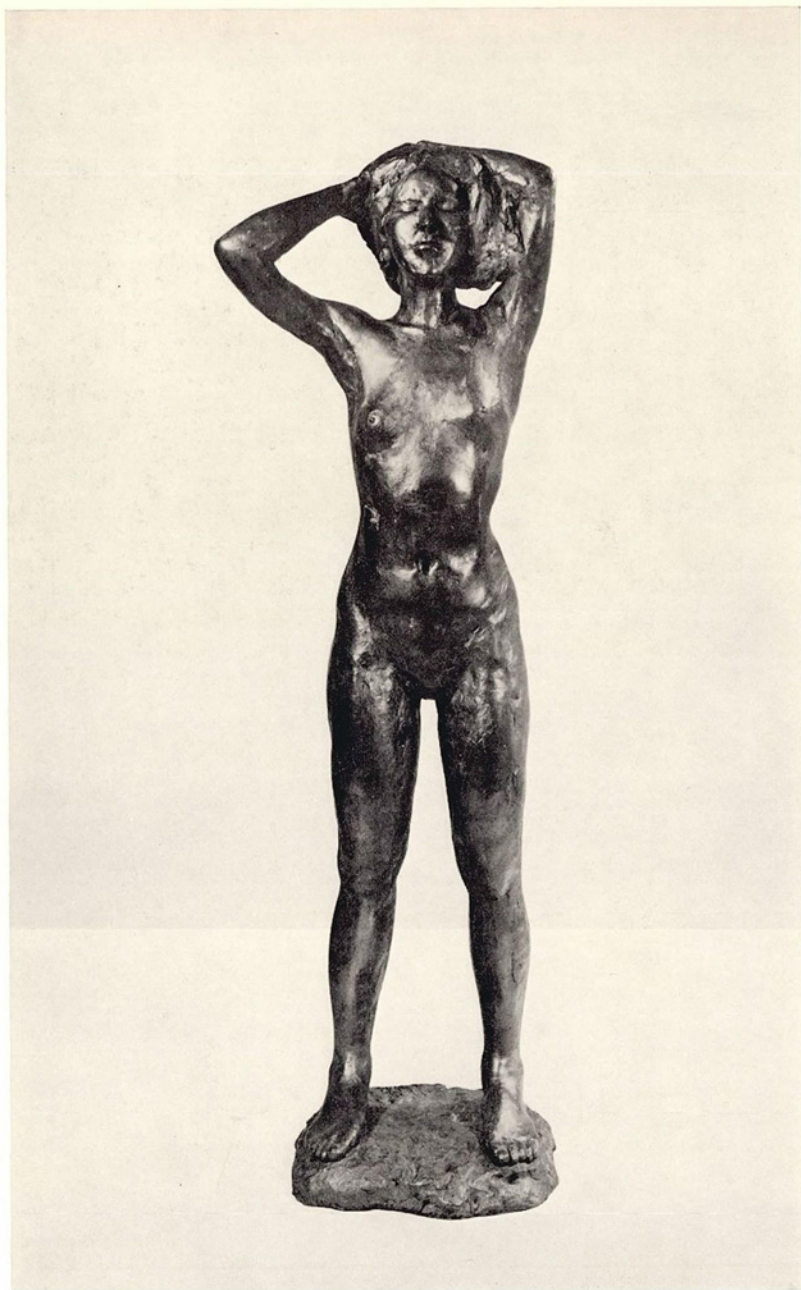
県議会議長賞 松野俊雄 埋立地 (洋画)



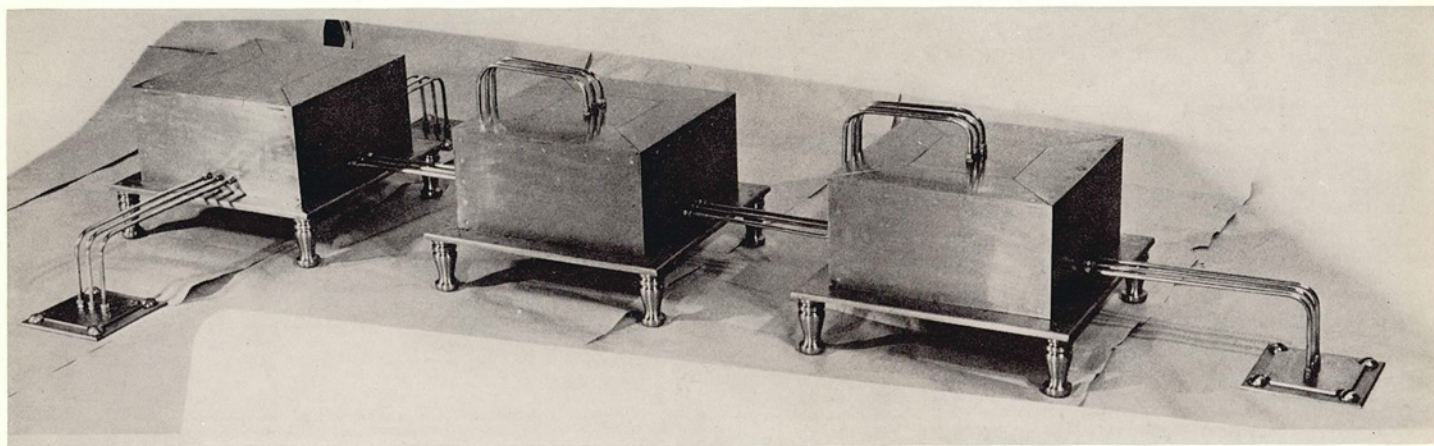
K氏賞 青木道夫 忘却への舟出 (洋画)



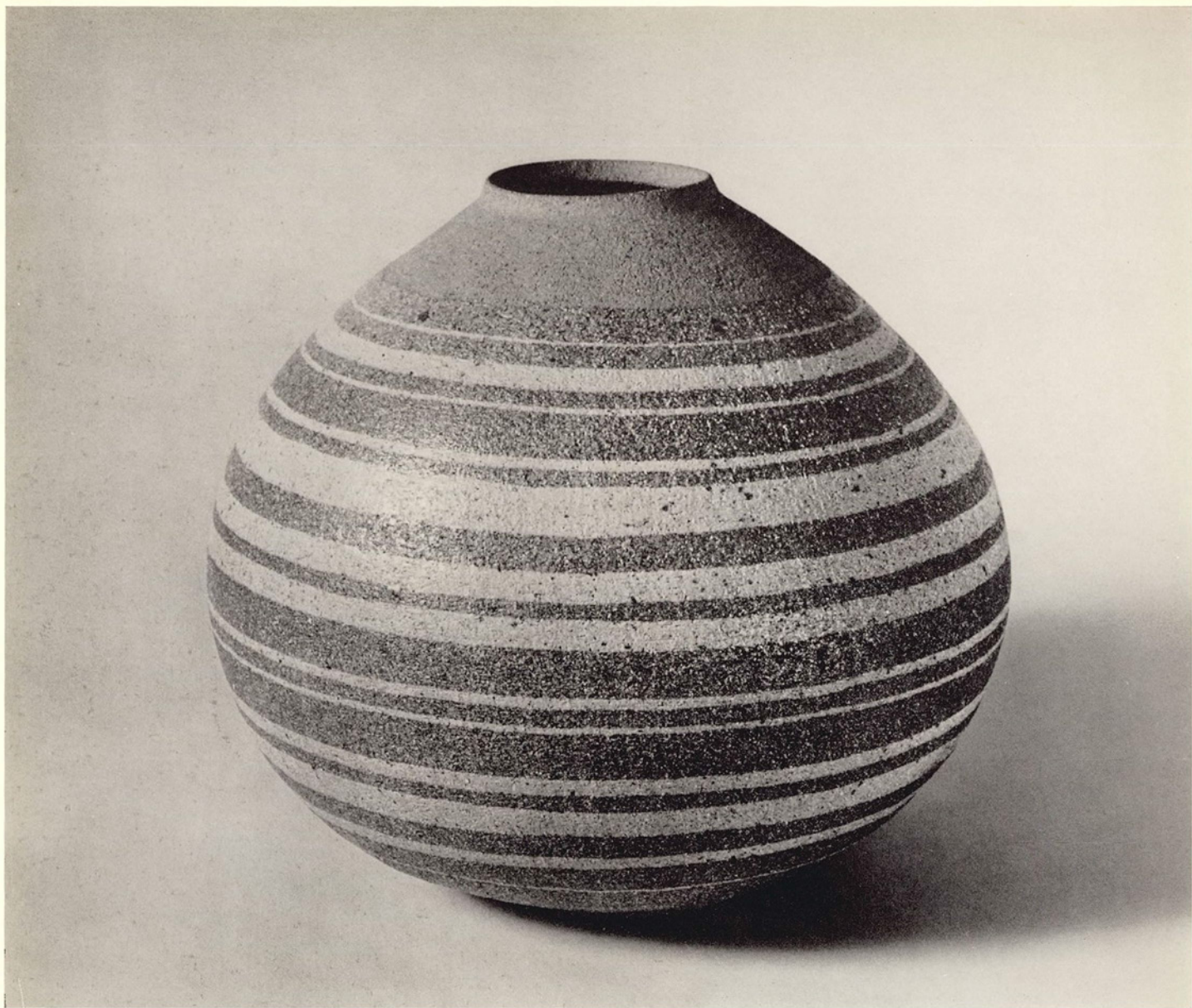
美術奨学会賞 五島三子男 消滅する風景とイメージの為に (版画)
 〈三戸浜海岸の暮色・北久里浜にて〉



美術奨学会賞 倉賀野廣 想い (彫刻)



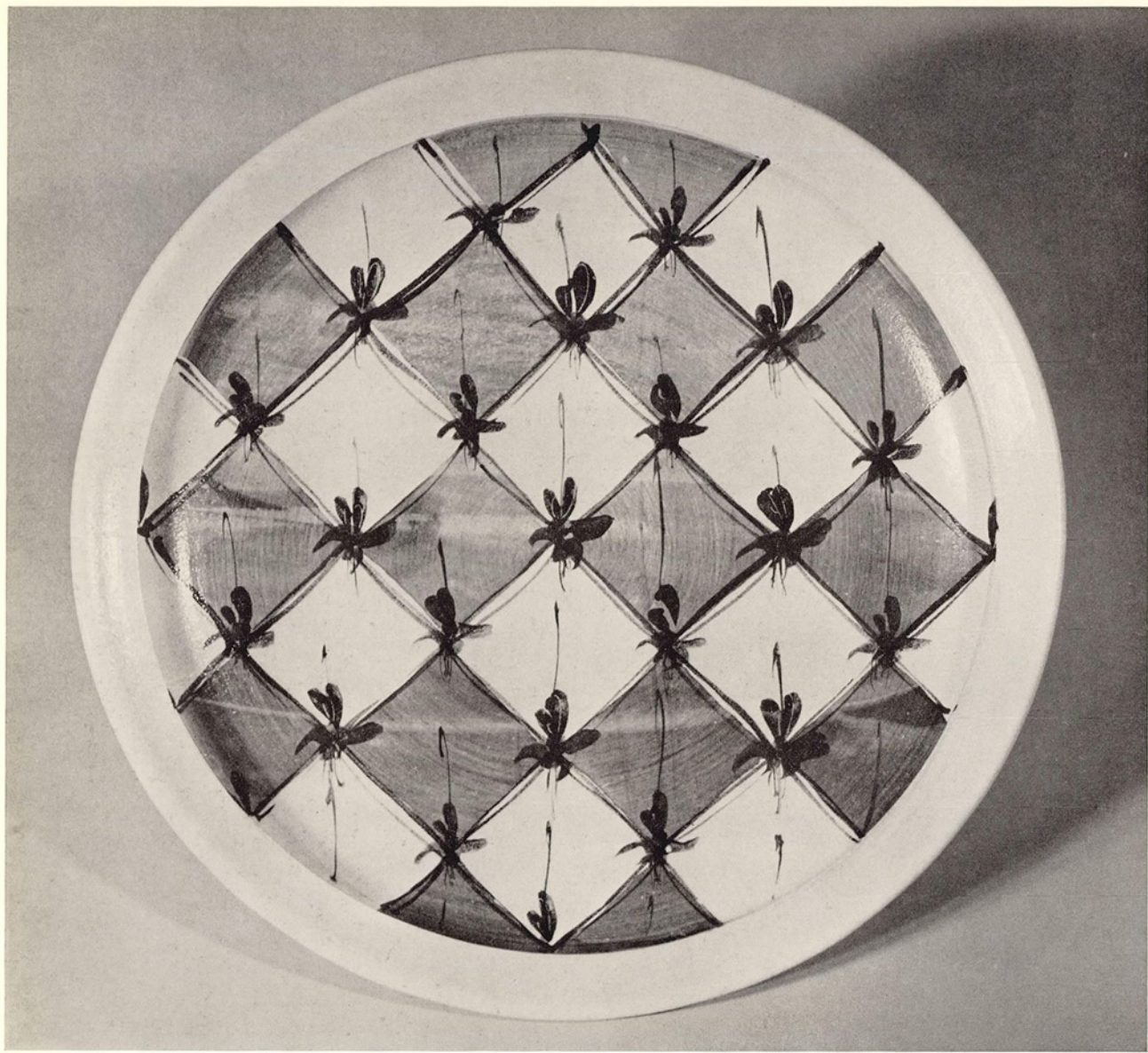
美術奨学会賞 原田和男 中間連結Ⅰ (立体造形)



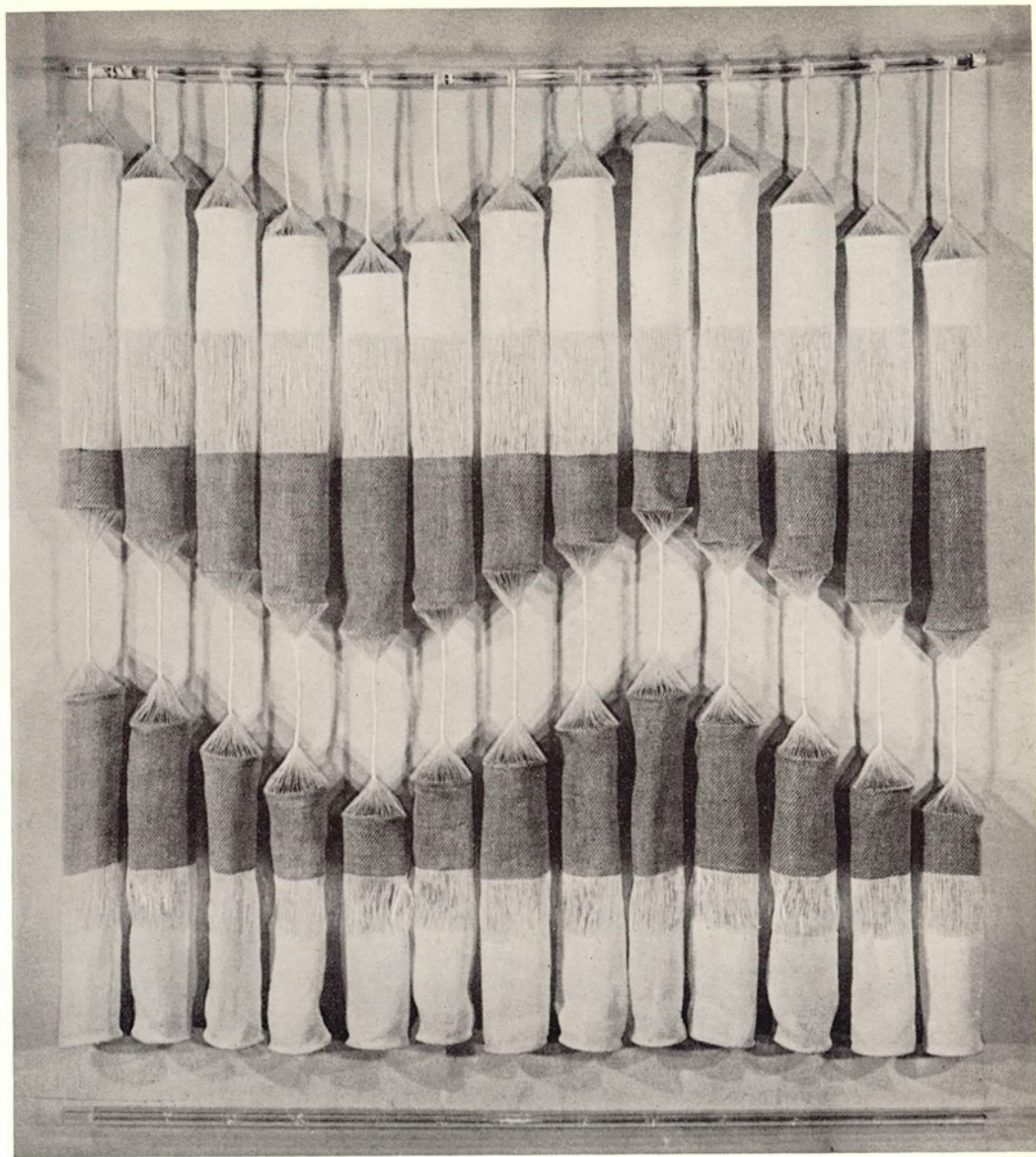
特選 茂登山泰晴 象嵌壺Ⅱ (工芸)



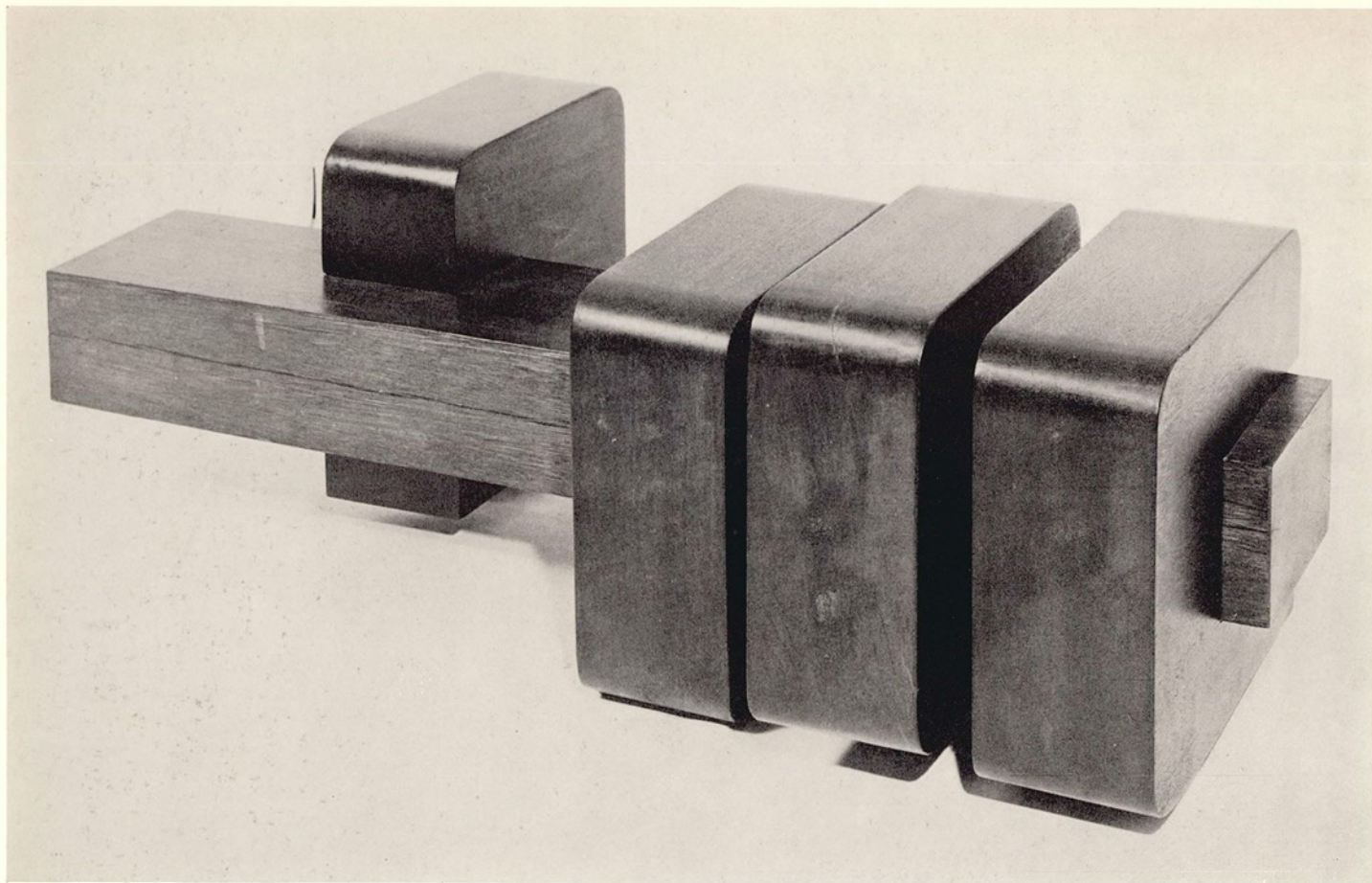
特選 林喜美子 街 (工芸)



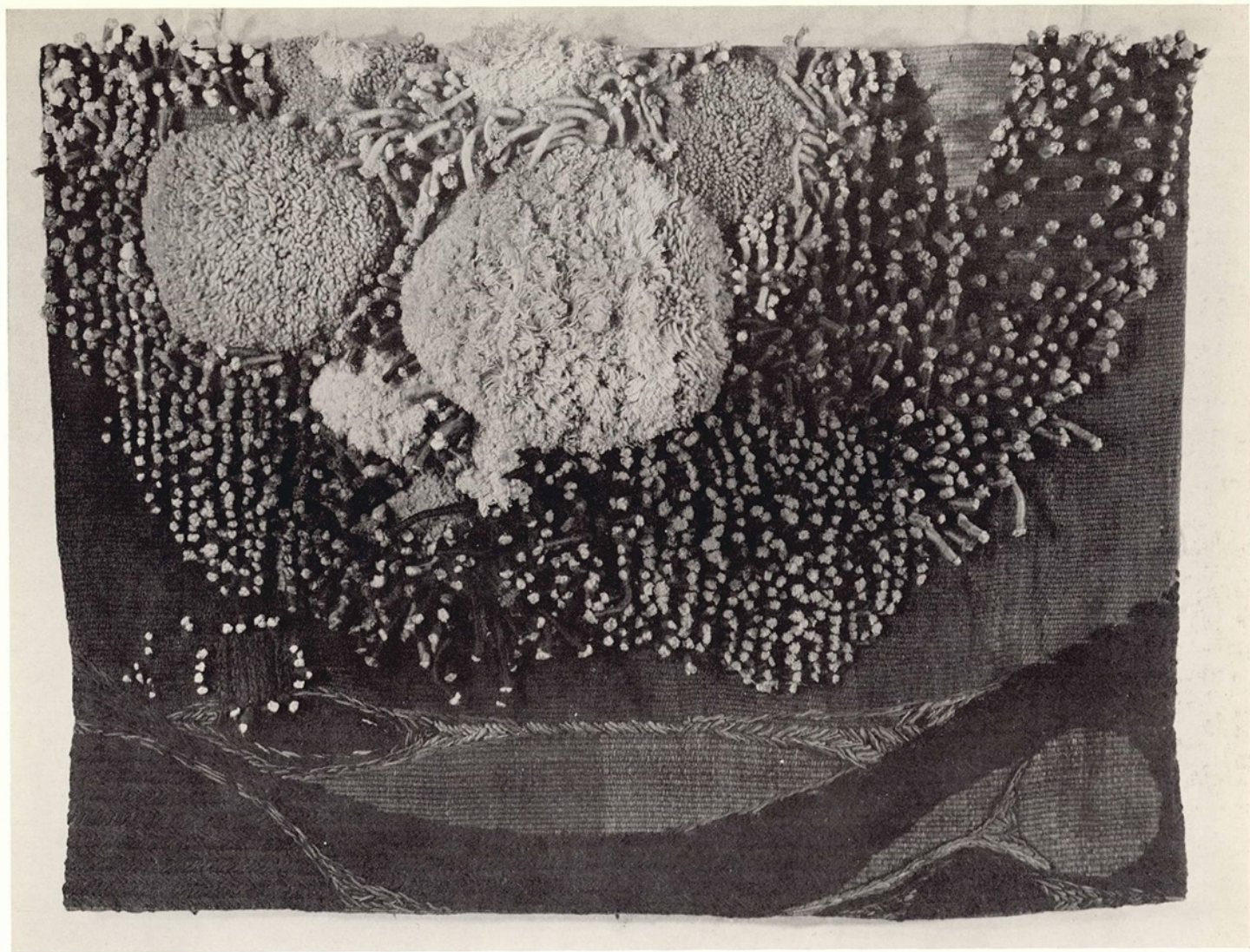
美術奨学会賞 安田律子 赤絵花文皿 (工芸)



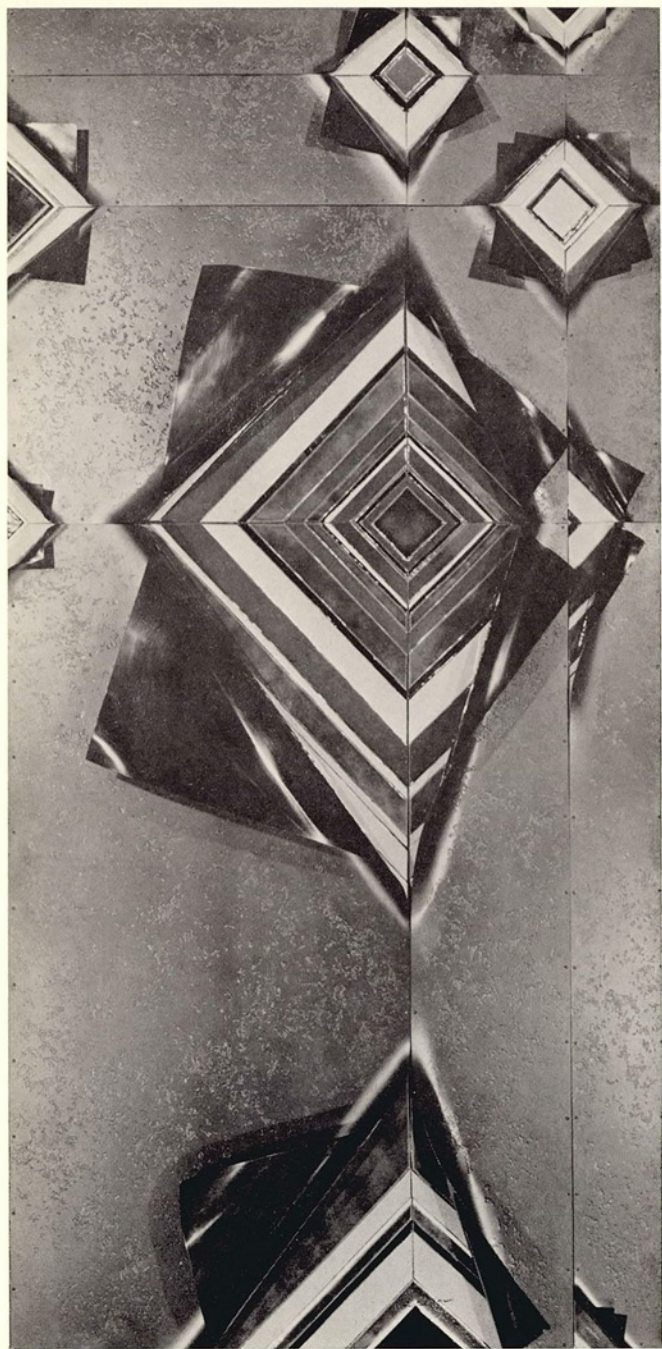
美術奨学会賞 中野佳子 スペースデバイダー〈波〉（工芸）



美術奨学会賞 小谷 豊 作品76 No.5 (工芸)



美術奨学会賞 長友晩子 touch (工芸)



美術奨学会賞 国行道子 神の目 (工芸)

明此初出清室時感遇事
 月有平入非平生志事
 清室在宋時感遇事
 憶予累人思天門所始人
 物事處處得在紅氍毹
 以人印首清室自漢胡人

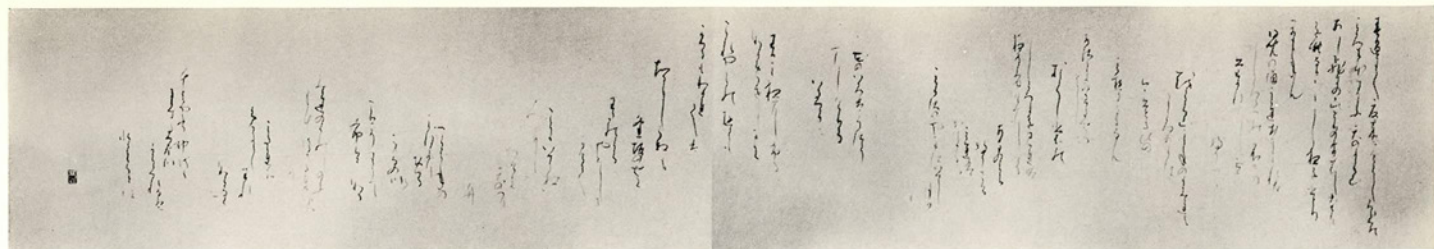
明此初出清室時感遇事
 月有平入非平生志事
 清室在宋時感遇事
 憶予累人思天門所始人
 物事處處得在紅氍毹
 以人印首清室自漢胡人

義農生我久學字人傳其後
 至禮之樂教得款法置教
 於我亦不虛也諸君命筆事
 於此也 竟所同津 善後不誤
 宣統元年 生鳴靜月 陶潤明詩

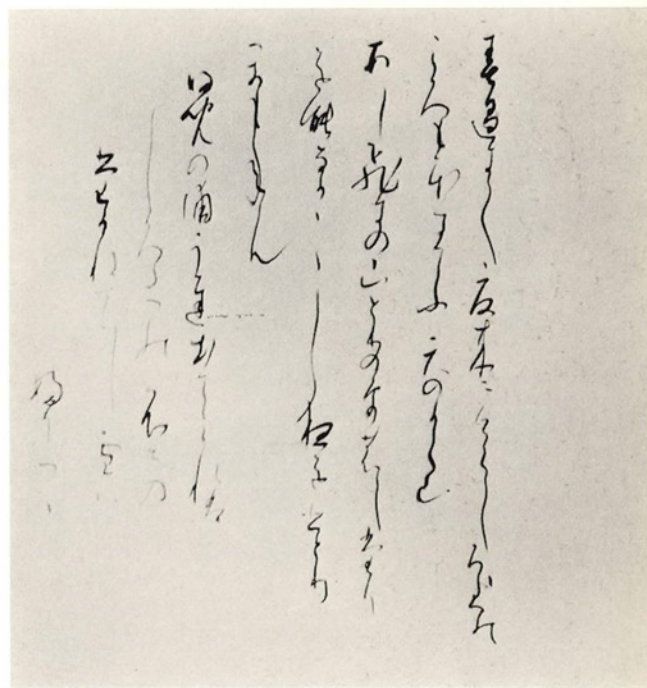
美術獎学会賞 生鳴靜月 陶潤明詩（書）

長風解纜去瀛州
 聖堂誰記 素懷妙
 一葉舟中蒼茫航
 路有相波深處
 賦高林

美術獎学会賞 星 光陽 夏日漱石詩（書）



美術奨学会賞 宮川フジ 百人一首 (書)

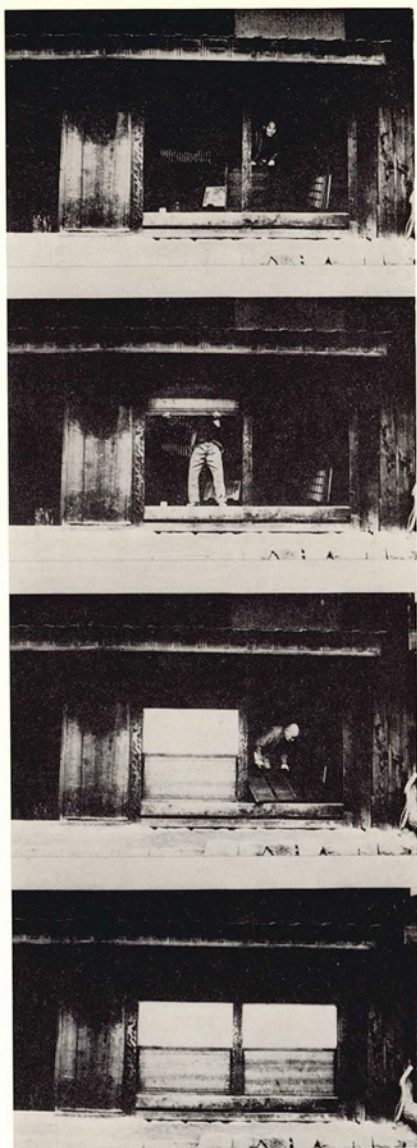


楊州明月杜陵花東道塵迎... 舊定公卿... 候關內武... 程少... 田... 楊柳... 封... 少... 眉... 追... 沙... 錦... 儀... 辭... 自... 博... 注... 共...
 君王... 故... 平生... 雲... 永... 吳... 紫...

美術奨学会賞 村上紫茜 吳偉業詞 (書)

漢書... 陶潛... 二月... 年...
 在... 川... 袁...

美術奨学会賞 川口流坡 袁宏道詩 (書)



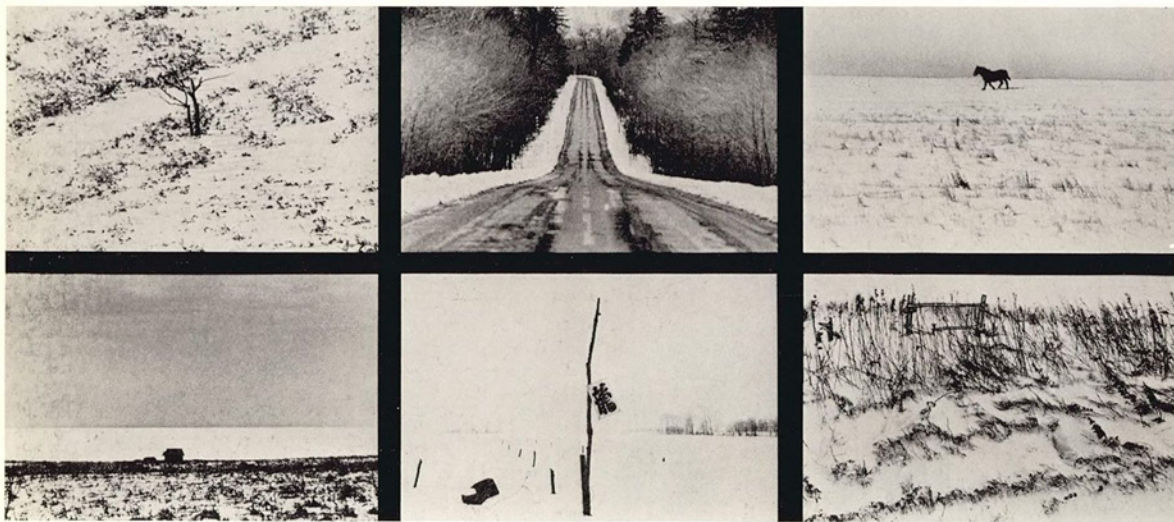
美術奨学会賞 斉藤利雄 戸締り〈妻籠宿〉(写真)



美術奨学会賞 萩谷芳美 おんな (写真)



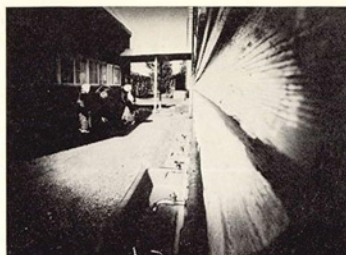
特選 佐治利雄 鎌倉薪能 (写真)



美術奨学会賞 増田康彦 さいはてへ (写真)



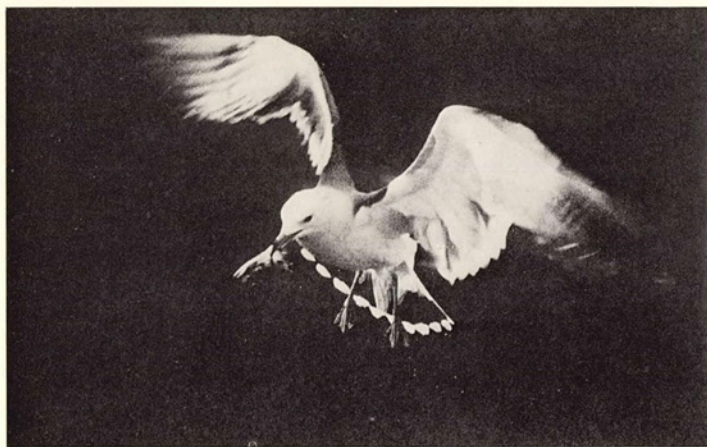
美術奨学会賞 目見田正 熱球児 (写真)



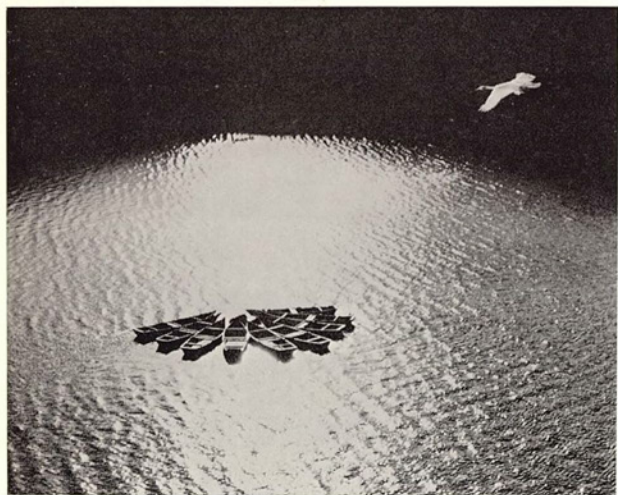
美術奨学会賞 鯉登勝彦 老人の日 (写真)



美術奨学会賞 菊地喜保 セイロンの女 (写真)



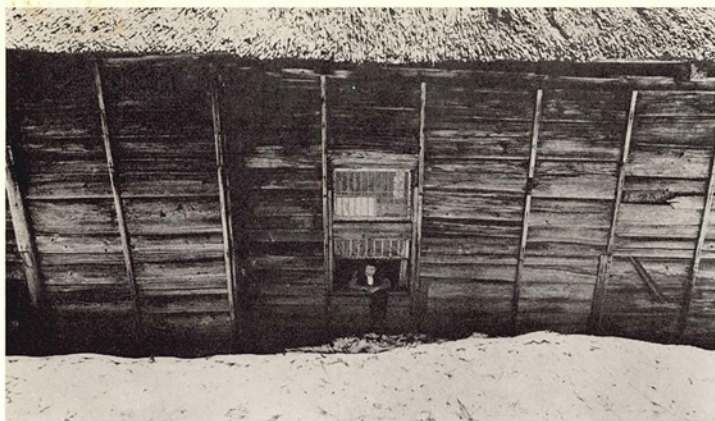
美術奨学会賞 石川昭朗 うみねこ (写真)



美術奨学会賞 榎田 守 早春の湖 (写真)



美術奨学会賞 渡部 満 たこたこあがれ (写真)



美術奨学会賞 藤倉忠明 早春 (写真)

コンクール部門出品目録

大 賞

鎌田 恵子 Lost my way (工芸)

準大賞

泉谷 淑夫 変 容 (洋画)

金子 典義 母と子<甘えの構造> (彫刻)

特 選

市川 保道 花映 (日本画)

宮田 翁 輔 あやつり人形たち (洋画)

茂登山泰晴 象嵌壺Ⅱ (工芸)

林 喜美子 街 (工芸)

伊東 撫 剣 王安石詩 (書)

佐治 利雄 鎌倉薪能 (写真)

美術奨学会賞

前本 利彦 Fall (日本画)

五島三子男 消滅する風景とイメージの為に
<三戸浜海岸の暮色・ (版画)
北久里浜にて>

倉賀 野 廣 想 (彫刻)

原田 和 男 中間連結Ⅰ (立体造形)

安田 律子 赤絵花文皿 (工芸)

中野 佳子 スペース デバイダー<波>
(工芸)

小 谷 豊 作品76 No. 5 (工芸)

長坂 暁子 touch (工芸)

国行道子 神の目 (工芸)

星 光 陽 夏目漱石詩 (書)

宮川 フ シ 百人一首 (書)

生嶋 静月 陶淵明詩 (書)

川口 流 坡 袁宏道詩 (書)

村上 紫 茜 吳偉業詞 (書)

萩谷 芳美 おんな (写真)

渡 部 満 たこたこあがれ (写真)

菊地 喜保 セイロンの女 (写真)

斉藤 利雄 戸締り<妻籠宿> (写真)

榎 田 守 早春の湖 (写真)

鯉 登 勝彦 老人の日 (写真)

目見 田 正 熱球児 (写真)

石川 昭朗 うみねこ (写真)

藤倉 忠明 早春 (写真)

増田 康彦 さいはてへ (写真)

県立近代美術館賞

男谷 省 吾 砂漠のドンキホーテ (洋画)

県議会議長賞

松野 俊雄 埋立地 (洋画)

K氏賞

青木 道夫 忘却への舟出 (洋画)

入 選

日本画

豊田 克文 思い出
伊藤 彰耳 證 果
佐藤 隆良 曇り日
桜庭 春來 Escape
林 道 沈 黙
大島 司郎 交叉「天蓋の天人」
宇野 圭一 昼と夜
香野 ルミ子 女達一早春
川村 紫朗 曼珠沙華
長沢 昭朗 脱
大貫 文江 無限の空間 I
大倉 葉子 樹 下
小島 敬介 化 身
斉藤 満栄 奄地夜雪
中村 紀栄子 胎 地
柳 績 黄 昏
飯野 静江 幽 玄
大嶋 実 誕 生
鈴木 紀彦 墟 (黒い鳥)
仙波 存乃恵 猫界曼荼羅
菊地 清喜 木 陰
加藤 敏夫 春近し
石踊 達哉 羽ばたかない鳥
松倉 茂比古 地に帰えるもの
保田 吉治 暮れる谷間
並 木 望 彷徨 II

洋 画

田 潤 俊人 冬天譚(II)
川口 勝司 無 題
沼尾 満 75-MASS-II
河本 正雄 アフタヌーン
梅田 東己 アペルドーン of 森
西原 幹 輪 廻
山室 紀元 白い卓上の静物
西村 充 蜃気楼
野原 松栄 拍子 (ブルース)
石塚 健児 窟 (家族)
富樫 京子 頭の上の風景—1
村田 玲子 過 去
小山 明子 青い棚
阿部 照夫 造成地
佐藤 平七郎 花の咲く丘
山本 巖 長い対話
柏木 隆一 冬の川辺
菅野 昌実 26の秋と女たち(A)
ハセ ユツム 紅碧殖
江野 永青 立
西国 学 Poetry II
鈴木 裕一郎 The transmigration
嶋 剛 of soul (two)
桑島 芳秀 「声」
富田 潤 団 地 r
白井 恵之輔 これから
木川田 光弘 自画像 76—1
伊藤 幸照 仮定 '76—2
青木 誠一 ワタクシのくらしより(一)
香川 猛 きしもじんのざくろ A
古沢 進 11時の彼方 (光の王国)
泉谷 淑夫 寒 村
ある日の午後の風景
化石の眼

木村 優博 家 族
北郷 薫澄 街 角
小山 栄 狂人の宴〔昼〕
谷川 義美 舎 利
吉田 隆晴 夏の終りに
和田 幸三 僕の友達 II
多田 実 過疎の譜
宮沢 悟 なわとび
加藤 千枝 「実になる」A
松垣 檀 オルニス II
田中 昭男 花と鳥と楽園(A)
宮田 翁輔 ポスターと人形たちと
大場 博 魔 船
山岸 功治 赤い郵便受け
男谷 省吾 砂漠のドンキホーテ
上田 郁子 幾 尋
ハッ橋 洋一 薄明の唄
新庄 憲彦 闇に棲む虫
松浦 延年 楠の木 (初夏)
中村 幸男 作 品 I
安岡 瑞 教会のある風景 II
伊藤 正 うもれる
赤尾 直美 エドガー・アラン・ポーに
山田 英男 捧ぐ「真夜中のパーティー」
宮崎 やす子 木 馬
永井 寿美子 面を被りて II
渋谷 重弘 時 刻
奥田 紘 やまあい 山間の風景 I
佐藤 武宏 コレクターの箱 II
荻野 勉 定規のある同罪
植田 曠躬 華子の町 II
内柴 静子 アリスの回想
高坂 陽一 虚 構 76—2
田中 善明 数 (F2)
四 劫 3 (成劫)
幻 影

藤原 寛子 GOD (O)
白石 明夫 遊 離
中島 健夫 探 湯 一刹那—
堀井 正明 タナト フィリア
高橋 祐子 ユートピア 一手漉き羊毛
菅野 功 ビンの静物 A

水彩画

松原 賢 若 女 (面)
栗田 重雄 解剖学 2
解剖学 3

版 画

伊藤 允雅 円空 十二神将像より (II)
神山 明 事 実 A
山崎 和代 予 感
佐瀬 隆 MY LEVEL I
山室 眞二 What happened
刈崎 昇 鶴の湯の常連
井口 則夫 Forever dream IV
森本 修一 作 品 3
市村 富美夫 空間になる女 —II
阿部 つや子 同 志
青木 幸生 小紋の風景
曾我 朝彦 告 白 III
佐久間 恭子 うごめき — (塔)
野田 裕示 自己表面
関根 希海雄 神々の遊び I
堀 美門 作 品
永金 宏文 ToBiUMA
中嶋 国博 笑いかわせみ PART—II
井上 郭子 太陽の舞い —3
若松 浩文 ネガとポジ No I
相沢 美則 人間の時代 (B)
西田 知子 反 影 No 1

椎名 則允 反 影 No 4
比留間 良夫 MY No
白川 雅啓 曼陀羅華 No 3
横井 清賢 Perception No 9
鈴木 よしお 風のある風景
大串 美保子 置れたものの見える光景
高橋 祐子 Eonta No 7
ユートピア II
天野 純治 フルプギスの夜の夢
EDGE 75-1-A
EDGE 75-2-A
井上 房子 輪による空間の異層
川瀬 きみ子 SEI—III
高柳 裕 BLUEFOCUS
shadow-yellow

彫 刻

入沢 史雄 hunting
李 赫 黄 河
金子 篤司 女
角野 竹博 鞠
出口 晶富 敵
柏原 花子 想 い
加藤 かずこ ポーズ
清水 誠 夏—'75
倉賀 野廣 とざされる人
森田 やすこ コスチュームの娘
杉 英行 ちかちゃん
関 正司 女
川島 美知子 飛行少年
ある女

立体造形

羽生 雅則 MELTING POINT
(DOGS)
三藤 茂夫 指 標 I

指 標 II
陶と光 No 1
一色 智嘉子 無 題 S
加藤 義郎 空気と水 (斜)
中島 憲一 第四世界の要素
原田 和男 中間連結 II
中間連結 III
藤田 仁 ジョイント—1976—1
林田 滋 Black INK
鈴木 明 THIS IS THE
PHOTOGRAM
伊藤 康彦 赤絵具 黒絵具
高橋 勝 旅行者 (文明の影と検証)

工 芸

松 本 道 子 もうすぐ春が
吉 田 きみ子 白昼夢
辻 雅 洋 翔
丸 山 千 寿 揺落し花器
金 子 一 治 1789~1799
吉 岡 末 子 つわぶき
小 林 望 子 泉
門 田 ヒロ子 二 人
小 磯 弥栄子 つ う
伊 奈 尚 子 春
饗 場 睦 子 少 女
岡 本 仲 子 花 精
春 海
石 原 昭 美 揺落長壺
萩 原 千 子 残 雪
長 岡 正 己 黒釉壺
西 尾 重 健 紋 様
湯 村 京 子 森の音楽隊
桂 雅 子 レキユエム No. 3
村 上 た ま 晴れた朝
楠 原 節 子 藍 緋
格 子
松 岡 哲 灰釉壺
村 田 崇 苗 花 入 (2)
林 亘 花挿し
宮 本 正 義 蕎麦斑紋壺
篠 塚 弘 美 ザクロ
三 木 たみ子 毛紡ぎ飾り布
厚毛 飾り布
後 藤 寿美恵 聖 火
佐 野 陽 三 名刺盆
森 脇 敏 跳
原 田 敏 幸 櫛手箱
川 地 明 子 Endless

村 田 尚 武 花 器 (2)
小 林 信 子 タ 映 (2)
太 田 光 子 つわぶき紋様飾盆
木 下 もと子 双魚文袖帯
松 岡 和 子 チベット厚毛による甃
アステカ戦死の語らい
三 嶋 眞 人 大日如來
石 川 和 子 彫紋花器 No. 2
川 鱒 寿 文 パネル 76-B
高 橋 功 薄赤地藤娘文帯
吉 田 亜火弥 声 1
声 2
竹 村 佳 男 フクロー
関 田 栄 也 めくもり
倉 田 忠 治 灰釉花瓶
福 島 亮 子 タピストリー
中 石 正 清 花 器
乾 定 夫 断 想
宮 道 ユキ子 手付運び盆
原 田 光 子 水 指
榎 本 とし子 花
西 村 妙 蟹
柳 沢 美千子 組 紐 B
渡 部 はつ子 おおさむ こさむ
山 村 助 成 幻想の花
樋 村 允 彦 '76「態」
羽 賀 美恵子 オブジェ
高 田 美保子 幽
江 成 房 子 春 光
木 内 隆 男 休息するかたち
佐 藤 田 保 暁角文花瓶
榎 本 未 生 迷 走
田 谷 そ よ 陽だまり
安 田 律 子 鉄絵鉢
井 手 久美子 作 品 A

森 かよ子 炎暑日記
大 塚 陽 子 風の中で
佐 藤 由美子 躍 動
菅 間 ゆみい スプリング・フラワー
高 橋 美津子 生
安 藤 弘 子 時間と空間との接点
近 藤 好 子 生命の水
平 岩 共 代 彫金ブローチ 3点連作
菅 野 健 一 赤い雲のある field
河 合 楽 子 夢 幻
田 畑 博 未知なる感覚(Ⅱ)

書

町田春華 寒山詩
田畑春園 杜甫詩
増山咫鳳 杜甫詩
岩渕北清 寒山の詩
須貝越葉 蘇軾詩
関美代 胡震
浅田雅之 杜甫詩（飲中八仙歌）
河田穂秀 杜甫詩
岩井明子 新古今集
伊奈翠陽 ころも
板橋恭子 夕の星
金子如龍 李白詩
木曾美津子 ありんこ
小林小笛 そでひちて
津越勲 沈休文詩
原幸子 さくら
竹内鳳仙 流
広橋晴 天女
森山カヨ子 近代詩文
八木香葉 八木重吉の詩
渡辺美代子 我が恋は
船本芳雲 ゆき
横田南畦 高適詩
西田静夫 李白江上吟
塚越博 七言絶句五首
南茗陽 李白詩
藤城英吉 月下独酌（李白）
阿部跳龍 唐詩
杉山紫苑 唐詩（七言律詩）
後藤霄鈴 臨王羲之書
田口鵬山 杜甫詩
服部守哉 蘇東坡詩
河本愛子 桂本萬葉集
一色道子 春のうた

久保田昭子 俳句
高井昭子 藍紙万葉集
鈴木淑子 筋切
遠藤正枝 和泉式部統集切
平田十臥 張祐詩 題松汀驛
関口大湫 李商隱詩 碧城
増田充子 新古今集
秋山松香 万葉の歌
石井澄水 寒山詩
鈴木蓉處 舟中夜起
吉田藻処 黃庭堅詩
加藤州處 曹子建詩
佐藤柚処 吳偉業詩
丹羽蒼処 蘇東坡詩
尾崎静鳳 李白頌
原茜処 元稹詩一首
谷口春泉 蘇東坡詩
小林光葉 李邕詩 奉和初春幸
相川鉄崖 東坡詩陳氏之園
長島正恵 友則集
松橋勝子 古今和歌集 四首
相沢和晃 温庭筠詩
阿部啓圃 新古今 春の歌
木下達 王士禎詩
桐山晃洋 杜甫詩
篠田朋泉 蘇軾詩
武田清美 和許綰事直夜簡諸公
千葉南道 張九齡詩
日野珠光 李賀詩
藤谷流翠 好忠集
八隅啓明 盧隱鄰詩
今西昌子 河中府耶律楚材詩
榊岡道子 古今集春歌二首
榊田しづ子 古今集一首
赤松万寿枝 恋歌
万葉のうた

入沢八祥 隸書千字文
加藤翠郷 唐詩七絶
岩崎敬子 出師表
石坂ミチエ 平塚雷鳥「青鞨」より
栗橋東崖 杜甫詩 飲中八仙歌
景山華峰 栢色紙
三村窓竹 与謝野晶子の詩「晩秋」
中澤俊男 高橋新吉の詩「皿」
鈴木茂子 石川啄木の詩
堀柳竹 三谷光一の詩「会津の冬」
中西瑞竹 吉田一穂の詩「荒野」
瀬戸翠谿 鵲踏枝
四宮撫琴 白居易詩
平田白虹 李義山詩二首
矢島撫周 王安石の詩
池田俊一 季商隱の詩 揺落
代田寶山 肇徳
高崎進 寒山詩
甘粕如香 良寛詩
林如巖 良寛詩
小川如泉 良寛詩
大矢鳳城 自詠詩（七言絶句一首）
日中友好凡如之章第二「我愛天安門」

写真

石塚力 モロッコの子供（3枚組）
小川実 木喰・馬頭観音
関原進 レイク・イーズ
大脇一男 千地藏B（2枚組）
安土邦男 浜岡砂丘にて
石川清 朝焼けの中に
清水啓一 千地藏（2枚組）
駒田礼武 ひるさがり
長谷川浩 女の時間
鷲頭宏行 学園の子ども（3枚組）

毛利公子 ブラックマーケット & ブラックキャット
望月資介 引き潮
若者
戸沢一紀 竜神
伏見宏 好奇心
笹尾佳見 帰り道
みみずく
吉田宏 虹の舞
金親敏雄 夏・十三湖 (3枚組)
田辺昇一 楽屋
阿部タモツ 明日への挑戦
福祉への前進 (3枚組)
柳井秀芳 茶屋旅情 (3枚組)
高杉茂和 寂静 (2枚組)
宮崎司好 長野盆地の秋
小西伸彦 白いドレス
関勇 朝焼
岡村志郎 紅葉
山口栄次郎 十五夜の川
森島信夫 Lost Love
諸星又春 盛夏
丹羽聡 闘魂
高橋亜矢子 失った愛 (3枚組)
津久恵 面神楽より
峯岸誠一 老舗
斉藤勝 公園 (3枚組)
佐藤裕弘 アメリカ (3枚組)
縫島剛夫 雪路
柴田金一 難波船
石田太市郎 習作
鈴木平三 納屋
菊地喜保 祈り
石川正秋 丹沢連峰
佐藤力三郎 野良犬 (2枚組)
尾作武 火の見やぐら

能見博行 農園の夜
片平雅士 燈台
のりしび
重野音吉 救いの絵筆 (3枚組)
岡田和雄 老婆 (3枚組)
林勇 凍風 (3枚組)
藤井健次 白馬の街
加藤惣平 叔父と叔父の
描いた叔母 (2枚組)
馬場純一 早春 (3枚組)
熊谷勲 晩秋
大須賀盛信 たわむれ
内田重孝 窓
片岡順一 航跡
木村杏平 リリー・オン・ヨコスカ
(4枚組)
中里雄二 マイライフ・山
小川洸 車窓
堀坂和夫 躍動
松田研 ベイティング (4枚組)
院瀬見統吉 おゝ昭和太平記
香島 冬の女 (2枚組)
相川宗八 朝の海
石川康彦 ビービングトムの夢相
(4枚組)
三井文一 宝永火口
巖冬
毛皮の女
みなと祭
猫 (3枚組)
江口多鶴 日くれる頃 (3枚組)
中江克己 三崎面神楽
相沢正一 修業時代 (3枚組)
小林富一郎 変貌 (横浜市戸塚区)
島津俊久 外川の女 (3枚組)
青木繁雄 ウシ

直井三男 四月の頃
小倉直己 独身寮
臼居一雄 若い母
寺田義晴 ベールの中
井上美根 漁夫
下郡洋一郎 冬の朝
星栄寿 鰐口を鳴らす少女
木村勇一 挑む
平林利明 秋の苔寺
吉田幸雄 もえる山
小林審一 奥飛騨
塩原康八 寒気 (材木座の朝)
住職 (光明寺にて)
源真和尚
清野義雄 おんな
佐藤正一 岩峰と奇岩 (2枚組)
吉田健吉郎 ある日の画家
遠藤新二 イメージ '76
高橋勤 おんな
関根徳雄 扶けるインドの子ら (炊事)
(6枚組)
高橋好信 石像面
武田聡 氷海の高波
上平昇 母の願
藤田仁 枯木 (2枚組)
平本昌義 世相 (2枚組)
田中修一 タやみの中で
本田健一 レニングラード冬 (2枚組)
小池将夫 台中の村芝居 (3枚組)
菅家隆雄 老いた獵犬 (4枚組)

コンクール展講評



日本画

日本画の出品点数は前年より僅かに減ったが、これは極めて厳しい技巧を要する日本画の特性を考えれば致し方ないことである。

むしろ七十二点を出品した出品者五十五人を通して、神奈川県下の現在の日本画水準が率直に示されているとすれば、相当の高水準にあることが物語られていると見るべきだろう。

しかもその水準を高めている出品者の半数が戦後生れの若い世代であることは、日本画の将来に対して、まことに喜ぶべきことである。

二十七人の二十歳代の出品者に対する戦前派たる三十歳から七十歳までの二十八人という実数は、従来日本画の世界では考えられなかったような数字である。

若い人々の日本画によせる関心が想像以上に強いことを示しているし、将来への日本画の発展に大きな期待が持たれるのだから。

さて全審査員の一致した所感は、日本画としての覚悟がはっきりできて来た、ということである。巧拙は別としても、描く人の腰がしっかり坐ってきている。しかし器用にまとめたり、思いつきや概念的に過ぎるものがまだ多く目につくため、もっと個性的な羽目をはずした作品の出現が望ましいと思われた。実験場なのだから、頭脳で描かず心で描いたものが欲しいと感じられた。その中から選んだ二十八点の入選作品は、それぞれに特徴を主張していると見たからである。

竹田道太郎



洋画

このところやや低迷の評をまねがれなかった洋画部門だが昨年は10周年を迎えての華々しい記念展の企画によって、公募展の内容も充実した。その余勢をかって今回の11回展は飛躍的なものとなるであろうと期待した。

準大賞になった泉谷淑夫の「変容」、特選となった宮田翁輔の「あやつり人形たち」、その他の賞となった男谷省吾の「砂漠のドンキホーテ」、青木道夫の「忘却への舟出」、松野俊雄の「埋立地」、また、賞候補にあがったが入賞を逸した植田曠躬の「虚構76-2」、菅野昌実「紅碧殖」等すぐれた作品であったし、一般入選作品のなかにも、入賞作と優劣のつかぬよい作品があって、それらを見る限り、県美術展の質の高さを思い知ることができるのである。しかし、水彩画を併せて754点の公募作品を見たあとの私の実感は、正直なところなぜか物足りぬものが残った。それがどういうものであるか言葉にできないが、総じてもう一つふっきれないと思うのは、あながち私ばかりではあるまい。

入選作品78点という厳しい鑑別のため、今回は不幸にも選外となった作品もあったが、いつものことながらはじめてから当然そういう結果になる作品もかなりあった。甚だしく小さい作品が目だったのも今回の特色であつた。それらはコンクールで競いあうのに不適當と思われた。もちろん小品がよくないというのではない。出品にあたってコンクールという性格をもう少し理解することが必要であると思うのである。

国領経郎



版画

神奈川県は世界に先駆けて版画アンデパンダン展を開く程、版画について関心の高いところであり、本展に出品する版画も年々増加し今年には特に大幅に出品者が増え、昨年と比較すると出品者数で約2倍、点数で約1.5倍となった。内容もリトグラフ、木版、銅版、シルク、その他と大変バラエティーに富んでいる。

又質的にも非常に高いレベルにある。出品点数の増加の反面、陳列壁面の制限がありほぼ昨年同様の入選点数となった為、4、5点出しても全落のケースもあり、厳選であった。結果的には1人1点、特に良い3人の方が2点入選し、それが賞候補になった。勿論1点の人でも良ければ候補に推したかったが、残念乍ら該当作がなかった。

賞候補になった3人の作品は木版、リトグラフ、シルクスクリーンと夫々の版種で可成り高い技術水準にあるもので、又個性的な仕事を続けている方々だが、やや類型化の傾向が見られ、一寸弱く大賞に推すには力不足であった。

出品者全般に言えることは技術的に大変上手になっており、一応の技術水準に達しないものは殆んど入選出来ない。その反面どこにもある類型が目立った。中には個性的な面白い仕事もあるが、技術的に難がある。特に銅版では専門家に指導を受ければずっと良くなると思われるものが多かった。若い人の出品が多いリトグラフ、シルクスクリーンではもっとオリジナルなものの探究が望まれる。又新しい傾向の仕事が少なかったのは残念である。木版では趣味的でなく、もっと現代的な仕事をしてほしい。

来年は大賞候補に推せる良い作品を出品してほしい。

馬場橋男



彫刻

今年の彫刻審査会場は石彫・木彫・金属・塑造の多様な作品に加えて等身大の大作が搬入されて熱気を含んでいた。

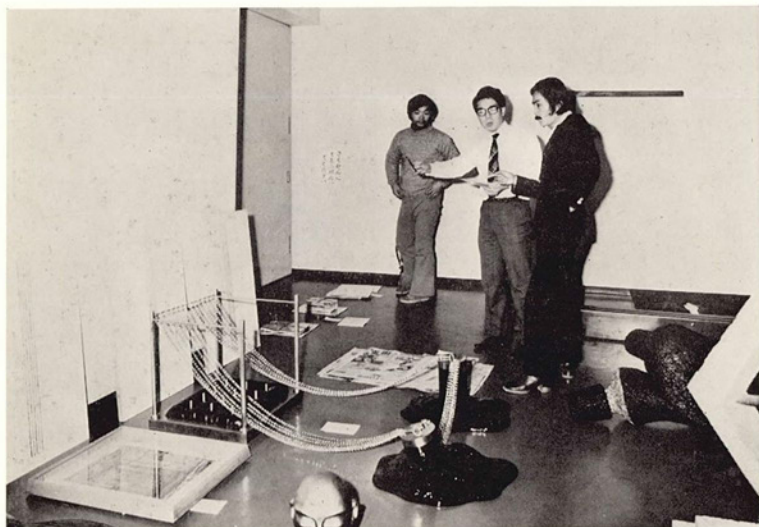
私は優れた作品は絶対に落さない方針で審査に望んだが、47点の搬入に対して16点の入選という相当な厳選となった。これは年々水準の高いものが多くなったためである。

自分自身のペースで新しい造型を求め、既成のものから解放しようとする姿勢が今年の傾向であり、彫刻部が準大賞を得た結果ともなったのだと思う。

これら清新なコンクール作品は招待作家の力作の出品と相俟って、県展に新しい創造の場をかたちづくるであろう。

選外になった方へ一言申し上げたいが、作家はみな揉みに揉まれながら自己を向上さもていくのであるから、不屈の魂で仕事を持続され、彫刻を作る喜びを会得して欲しいと思います。

井上信道



立体造形

今年の立体応募作品は総体に完成度の高いものが多く、一人で数点出品された作家の中には全部を展覧出来たらばと思うような作品もあった。当然とはいえ、一定の枠内で入落を決めることは至難であった。かつて自分達が出品していた頃と同じようなものを活気の中に見出した時、県展がこれからも意欲充分の作家達に答うべき、刺激となにがしかの魅力を与えるかもしれない場であり続けて呉れることと望んでいる。

密波羅伸三・真板雅文



工芸

今年の工芸部門における応募点数は204点、これを昨年の210点に比べるといささか低下してはいるが、逆に応募者の数では昨年の136人に対して今年の137人と上廻っている。この数字から見ても応募者の動向はほぼ例年通りといったところであろう。

今回はこの204点の中から昨年より2点多い88点が入選し、その中でも特に優秀と見なされた鎌田恵子（染織）茂登山泰晴（陶器）林喜美子（染織）国行道子（七宝）小谷豊（木工）中野佳子（染織）安田律子（陶器）長友暁子（染織）菅間ゆみい（金胎漆工）篠塚弘美（金工）の作品10点が賞候補に推され、その後の他部門との合同審査の結果、鎌田恵子作「Lost my way」が見事大賞を獲得するに至ったことは、工芸部門にとって非常に喜ばしいことであった。

さて、審査に当って感じたことは、まずこの部門の各分野で女性の活躍とその台頭が真に著しいこと、次には切角習熟した技術を持ちながらも、感覚の上で、単純明快、さらにはシャープでヴァイタリティーに富むといった近代の特性を把握し得ず、ともすれば従来の類形とも思える仕事に終始している点であって、これが各分野に等しく目立っていたことは遺憾であった。これからは、工芸といえども飽くまで今日的な斬新さと、創作性豊かなものが望まれるわけで、そういった面でアマチュアも専門家も自らの個性を充分に発揚してもらいたい。たゞし、あまりにも独善的で美しくないものは困るのである。

吉田耕三



書

本年度の出品層は、全体を通じて著しい質的向上を見せていたといえる。その現れとして、長條幅（枠張り）型式を例にとっても師風の継承は拭い切れないとしても、いわゆる明清調型式からの脱却を見せ、数年前と比較にならぬ進歩を見せたといえよう。

しかし、中字作品においては、構成法等をはじめ、まだ苦心の足りなさが目立った。

このことは、近代詩文においても同様、特に傑出したものの見られなかったとは、いささか期待外れであった。

かな作品は、前年度に比し、やや低調のそしりをまねがれなかった。なお一層の奮起を促したい。

漢字、かなともに、臨書作品が出ていたが、一部を除いては、原典を巧みに生かすとはまでは行かなかった。もっと工夫と発展性とか欲しいところである。

料紙についても、漢字は白という個定観念に縛られることなく、もっと効果的な材を使用してほしいものである。

また、折角、表装型式の一つとして方形型式を設定したのであったが、これを巧みにこなした作に出逢わなかったことも淋しいことの一つであった。

今後の本展への出品者に望むことは、もっと自由で、創意に富んだ情懷の発露を見せてほしいことである。われわれは、意欲ある新人の台頭を双手を挙げて待つにやぶさかでないことを明言する。

殿村藍田



写真

写真部は今回で十回展ですが、初期の頃をふり返ってみますと、レベルの向上には画期的なものがあります。

写真部の最高作、佐治利雄氏の「鎌倉薪能」は、郷土のモチーフを使って、能舞台の格調高い雰囲気をよく促えました。作者のキャリアからいって、当然の栄冠でしょう。目見田正氏の「熱球児」は、写真独自の瞬間描写の素晴らしさで、練習風景をよく表現されました。齊藤利雄氏の「戸締」は、妻籠宿の文化財的家屋を戸締りする老爺の連続写真で、内面的な面白さをよく出しました。藤倉忠明氏の「早春」は、まだ残雪のある雪国の遅い春を、牧歌的にうたっています。鯉登勝彦氏の「老人の日」は、老人の運動会ものですが、当日の行事を愉しんでいる人々を写しながら、そこに内在しているペースがよく出ています。石川昭朗氏の「うみねこ」は、鷗が子に与える餌を大事そうに運ぶ姿がいいと思います。渡辺満氏の「たこたこあがれ」は、団地の広場で車椅子の親父さんが、ゆうゆうと風を上げているヒューマンな作品で私は好きです。萩谷芳美氏の「おんな」は髪に花を飾ったヌードのデコラティブな作品で、優れています。榎田守氏の「早春の湖」は、風景作品の中で一番心にしみました。増田康彦氏の「さいはてへ」は、北国の寒々としたさいはて感がよく出ています。菊地喜保氏の「セイロンの女」は、東南アジアの写真の専門家である菊地氏の独壇場です。 奥村泰宏

招待部門作品目録（順不同）

日本画

森戸國次	好日
加藤東一	静物
渡辺幸雄	桜島
石川響	洋上の火山
田島なす美	花と遊ぶ
小倉遊亀	淡香
中島清之	夜梅
小松澄佳	人形
浅見信夫	花
小島昇	風景
山本丘人	山樹早春
伊藤彬	
大山鎮	
結城天童	おかいこ
上田臥牛	舟上母子
月岡榮貴	魚

洋画

中村琢二	西伊豆風景
中谷龍一	風景（ブルゴーニュ地方）
猪瀬踏花	ボートのある広場
木下壽々子	ボートディクソンの日曜日
小泉元生	風景
源川雪	南国の午後
吉崎道治	風景
岩館知義	風景
松本久男	風景
寺井重三	踊り子
国領経郎	少女
桜庭彦治	札幌秋色
新井康須雄	建物
石田精吾	石仏

阿部和美	ベニス
井口啓	人
梅林良子	或る風景
矢野雅章	秋色
樋口善一	アルプス山麓
飯島義也	静物
佐々木文綱	風景
出口竜王	shop
川口雄男	サン・ドニの古い家並み
進藤清	風景
故三樹保	本牧の商館
添田定夫	風景
内藤雅彦	スチールライフ
佐々木雅人	薔薇
鈴木雪子	草の中
増田常吉	冬のから松林
川島實	白馬の見える部落
島田四郎	風景
川口栄	風景
田中君江	古都暮色（ベルーシア）
佐藤美子	風景
木村光江	静物
戸津文雄	戸隠残雪
岡野正樹	森の小道（パリ・ バンセンヌ）
安喰虎雄	静物
遠藤典太	柏真
越智雄二	海
横尾丈夫	風景
田代利夫	作品
田辺謙輔	教会堂のある丘
小清水金司	風景
益田義信	モレー風景
水野英夫	虚空

安富信也	風景による
赤岩賢三	合奏
杉本賢司	残雪
石井佐一	岩上釣
江見絹子	作品
岡村芳男	オーケストラ
志村計介	（下曾我）梅の里
江添栄一郎	熱砂の人々（パルミラ・ シリヤ・SILK POAD）
土井俊泰	人形
西野久子	アフリカの女
北岡数彦	風景
杉浦勝人	静物
阪本文男	帰ってからのアリスの遊び
勝呂忠	夜の門
木村良枝	華
清野恒	ヒマラヤ
曾根亮	作品
永井肇	木の神話
古川益弘	風景
栗原喜依子	オービュッソン
堀内千里	静物
鶴田猛	作品
河野日出雄	少女
江川光信	庭の一隅
荒井茂雄	レモン色の樹
柴田周一	Black and White
田沢茂	民話「冬の夜」
小関利雄	風景と猫
柴田善登	冬の人
安保健二	テムズ河岸
頼島好正	かたち
武林敬吉	スペイン風景
斉藤義重	無題

稲葉治夫 Stripes 76—1・3
 油野誠一 丘
 細井千鶴子 風景
 田賀亮三 無題
 広瀬一二 残照
 宇都宮マリ パンプローナの僧院
 三橋兄弟治 パキスタンの女
 井上俊郎 はるかなる詩
 森秀男 静物(慈姑のある)
 塚谷恵津子 うずくまる
 森川ユキエ 腕をくむ女
 和田松久 人形
 湯川治郎 PACKAGE—S
 稲木秀臣 黄色基調(花)
 寺田春弼 作品 105
 佐藤努 柔らかい空間
 千田高詩 海上日之出
 塚本茂 故郷
 中西新太郎 めでたしめでたし
 加藤義雄 雪山
 浅生田光司 翔
 金岩清隆 風景
 越後島芳明 有明初夏
 後藤武久 箱根駒岳
 善浪迪 197511—A
 江波伸 海辺の石切場より I
 笹英子 窓辺
 鈴木充朗 ある風景 V—1
 長宗希佳 群像
 高瀬哉沖 森の中
 山下征治 確認ずみの飛行体
 伊藤愛子 作品—1
 熊沢淑 川辺の道
 大道健治

版 画

故棟方志功 振向妃の柵
 馬淵聖 りんご
 馬場橋男 バレード 3
 大内マコト 群像
 岩見禮花 水の影
 栃木順子 作品—76—1
 (赤の為の作品)
 日下賢二 標的
 若江漢字 作品—75—Den Haag
 相笠昌義 (日常生活・動物園にて)
 ゴリラを見る人
 斎藤カオル ぼうし

彫 刻

高田博厚 女のトルソ
 榎山三穀 久遠
 伊藤芳雄 龍
 長江録弥 母
 浅井行雄 立像
 圓鰐勝三 栄光
 圓鰐元規 静かなる男
 溝口寛 夏のかたみ
 齋藤高德 夏
 中村宏 若い女
 河原明 春
 井上信道 女
 西谷富士雄 若い人
 垣内治雄 雲に臥す
 菅沼五郎 禿頭
 安田周三郎 裸婦
 松本繁来 そこに……
 井上玲子 婦人像
 武次郎

立体造形

蜜波羅伸三 045—S—食事
 今井由緒子 17.3kg のアルミニウム
 高木敏行 窓
 山井イクオ LANDSCAPE 風景—1976
 伊藤隆康 45°
 菅沼緑 一人トランプ
 眞板雅文 無題
 原口典之

工 芸

赤堀郁彦 対
 飯野啓三 街
 岡村康子 クリスタル硝子花瓶
 各務鏡三 木洩陽
 吉田丈夫 クリスタル花器「彩雲」
 青野武市 青のフォルム
 小林貢 蹟
 今井久江 青銅額「鳩」
 慶寺丹長 姥口腰轆釜
 中田呂尚 オーガニック・コンポーズ
 永井鉄太郎
 蓮田脩吾郎 青壺
 舟越健次郎 唐銅 六角薄端花入
 山口壽雄 夏・女
 石川充宏 帯(ローケツ染)雪と山と湖
 暮田延美 梅
 佐藤もとい 染額 からくさ
 廣井樹美 紬着尺「爽」
 浜田真爽子 朝
 平田徹子 雑想
 山岸南子 野の息
 市橋とし子

野田芳正 或る母子
 橋本公恵 大山秋色
 小菅春代 擁
 上村桑子 春宵
 河村又次郎 窯変 渦彫文壺
 芝山吉邦 象
 鈴木三成 壺
 南雲龍 ある星のかけら
 小竹雅山 壺
 小嶋章光 木精
 加藤皇 豊
 三浦勇 浜辺の幻映
 林良達 球と角
 松井三郎 LIFE POINT
 馬場松堂 作品 '76
 大菊昭治 モニュメント "72",
 江刺栄一 作品 76-1
 後藤俊太郎 獅子頭
 竹内佳夫 魔虚
 水野矯夫 女人像
 佐野登志子 木立
 北條とみ子 へいわ

書

青木香流 山彦よ
 天野翠琴 和歌
 荒井香竹 金子光晴の詩
 荒木幽芳
 飯原青洲 雲遊霞宿
 池上鶴洋 白楽天詩
 鵜飼寒鏡 古歌
 及川初恵 万葉集より
 大島崑山 黄遵憲詩
 大西芳流 大慈

大道静波 高青邱詩 梅花
 岡田扇香 若山牧水の歌 我が庭の
 川口芝香 牧水の歌
 佐々木如空 良寛詩
 齋藤丹鶴 戒
 志賀正枝 和歌
 重田翠村 王漁洋詩二首
 島津碧崑 陸游詩
 鈴木小江 百人一首抄
 鈴木龍雲 咸陽
 仙場右羊 蓮花在水
 竹田悦堂 釈迢空の歌
 田中真洲 龍
 溪口幽城 李白 洞庭に遊ぶ
 殿村藍田 花
 中平南谿 蕩々無偏
 中村松堂 麗日探勝忘世情
 中山鶴雲 十四字句
 長島南龍 起
 西川万象 李白詩
 西村西洲 千字文
 萩原櫛風 飲酒（元好問詩）
 比田井南谷 75-2
 船橋春浦 山家集より
 松本利一 高遠
 山口清苑 唐詩
 吉田蘭處 羅隱詩「梅花」
 山本撫獄 黄遵憲詩

写真

青木誠三郎 WELCOME Q.E. II
 伊藤藤十郎 思い出のアルバム
 内山知治 夏
 大谷正夫 築地・明石町

奥村泰宏 写真小ばなし3題
 影山光洋 石庭（白馬岳山頂）
 里見力磨 宵
 塩田正男 ノード
 鈴木健夫 光のシンフォニー
 常盤とよ子 寒い朝（モスクワ郊外）
 中島倍三 街
 野沢喜七 元禄の心
 浜口タカシ 厳冬の北海道
 平山勉 離島航路

第11回神奈川県美術展委員会組織

顧問

日本画

小倉遊亀
中島清之
前田青邨
安田靱彦
山本丘人

洋画

小山敬三
斎藤義重
野口弥太郎

版画

棟方志功
(S 50. 9. 13 逝去)

彫刻

圓鐸勝三
高田博厚
安田周三郎

工芸

赤地友哉
各務鑛三

書

殿村藍田
比田井南谷

写真

影山光洋
(順不同)

委員会委員

委員長
穴水清彦

副委員長
菅原壽雄

竹田道太郎

土屋利保

寺田透

中村溪男

野尻高経

土方定一

三上次男

宮之原武雄

李家正基

山本丘人

小関利雄

井上信道

各務鑛三

殿村藍田

奥村泰宏

大賞・準大賞選考委員

穴 水 清 彦
菅 原 壽 雄
竹 田 道太郎
土 屋 利 保
寺 田 透
中 村 溪 男
野 尻 高 経
土 方 定 一
三 上 次 男
宮之原 武 雄
李 家 正 基
山 本 丘 人
小 関 利 雄
井 上 信 道
各 務 鑛 三
殿 村 藍 田
奥 村 泰 宏

審査員

日本画

大 森 運 夫
加 藤 東 一
竹 田 道太郎
月 岡 栄 貴

洋 画

安 喰 虎 雄
石 井 佐 一
金 沢 博
川 口 雄 男
国 領 経 郎
瀬 島 好 正
田 中 昇
寺 田 透
土 方 定 一

版 画

斎 藤 寿 一
馬 場 橋 男
若 江 漢 字

彫 刻

井 上 信 道
坂 上 政 克
安 田 周三郎

立体造形

真 板 雅 文
密波羅 伸 三

工 芸

飯 野 啓 三
市 橋 とし子
今 井 久 江
各 務 鑛 三
蓮 田 脩吾郎
馬 場 松 堂
広 井 樹 美
吉 田 耕 三

書

大 島 富 山
鈴 木 小 江
殿 村 藍 田
荒 井 香 竹
西 川 万 象
萩 原 櫛 風

写 真

奥 村 泰 宏
影 山 光 洋
田 中 雅 夫
常 盤 とよ子
永 田 一 脩
浜 口 タカシ

実行委員

日本画

* 大 山 鎮
浅 見 信 夫

洋 画

井 口 啓
市 川 勉
江 添 栄一郎
阪 本 文 男
鳴 剛
柴 田 周 一
杉 本 賢 司
* 田 代 利 夫
寺 井 重 三
内 藤 雅 彦
古 川 益 弘

版 画

* 大 内 マコト
木 村 希 八

彫 刻

井 上 玲 子
圓 鐸 元 規
* 武 次 郎
溝 口 寛

立体造形

今 井 由緒子
* 山 井 イク夫

工 芸

* 赤 堀 郁 彦
江 刺 栄 一
大 菊 昭 治
上 村 桑 子
小 林 貢
永 井 鉄太郎
林 良 達
平 田 徹 子
水 野 矯 夫

書

* 青 木 香 流
池 上 鶴 洋
岡 田 扇 香
高 木 三 甫
松 本 利 一
吉 田 蘭 處

写 真

伊 藤 藤十郎
大 谷 正 夫
* 里 見 力 磨
塩 田 正 男
鈴 木 健 夫
野 沢 喜 七
中 島 倍 三

* 印は各部門実行委員長

「女って、かわいいものね」

当の女同志で、そんな話をしている。
春の陽ざしが明るいターミナル。

「たった1コの指輪で……」

「好きになっちゃったんだものね。」

「単純なのね……」

「バカなのよ」

「けちなよ。きつと」

よく晴れた冬の日、

風がはこんできた、かわいいお話。

あるとき、男が魚の形をした指輪
をはめていたのだそうです。彼女は、
それが欲しかった。それをください
と頼んだら。男は、黙っているばかりで、
それをあげようとしなかった。
ちよつと好きだったのに、彼女は、
男の冷たさを憎みました。嫌いにな
りました。と、ある日、男は、彼女
の白い手に、男と同じ魚の形をした
もう1つの指輪を買ってきて、そつ
としました。小さな声で「好きだよ」
とささやいて。

「ウソつきなのね。」

「……へそ曲りなのよ。」

「前にも、きつとウソをついていたのよ。」

女は男に甘え、男は女にイジワルする。

女は男にウソをつき、男は女に甘くする。

いつまでたってもクルクルまわる輪
のことを、数学ではメヴィウスの輪
といって、昔から「知恵の輪」とも呼
んでいるのだそうです。

ジョイナスはみんなのふれあいの場
ファッションのターミナルです。



ヨコハマ駅西口

SOTETSU
JOINUS

復元 掛軸・扁額 ごあんない

- | | | | | | | | |
|-------------------------------|-------|----------|-----|----------------------------------|------------|----------|-----|
| ●夏冬山水図(双幅) | 雪村筆 | 142,000円 | 講談社 | ●蘆葉達磨図 | 宮本武蔵筆 | 29,500円 | 講談社 |
| ●国宝秋冬山水(双幅) | 雪舟筆 | 74,000円 | 講談社 | ●雷電為右衛門手形 <small>限定300</small> 賛 | 太田蜀山人 | 88,000円 | 講談社 |
| ●破墨山水図 | 雪舟筆 | 52,000円 | 講談社 | ●遠州一行書 | 小堀遠州 | 52,000円 | 講談社 |
| ●早梅の文 | 千宗易 | 52,000円 | 講談社 | ●遺 偈 | 一休和尚 | 59,000円 | 講談社 |
| ●茶道具注文黒印の文 | 千利休 | 50,000円 | 講談社 | ●春秋相宜 <small>双幅 限定1000</small> | 小林一茶 | 55,000円 | 講談社 |
| ●発句入文 | 千利休 | 55,000円 | 講談社 | ●良寛一行者 | 良寛筆 | 52,000円 | 講談社 |
| ●夢 | 沢庵和尚 | 48,000円 | 講談社 | ●良寛扇面和歌 <small>双幅</small> | 良寛筆 | 128,000円 | 講談社 |
| ●菊の香や自画賛 <small>限定700</small> | 松尾芭蕉 | 45,000円 | 講談社 | ●歴観二行 | 勝海舟筆 | 39,000円 | 講談社 |
| ●風 信 帳 | 空海筆 | 68,000円 | 講談社 | ●達 磨 | 白隠筆 | 45,000円 | 講談社 |
| ●伊都内親王願文 | | 68,000円 | 講談社 | ●寒山捨得 | 仙厓筆 | 38,000円 | 講談社 |
| ●光定戒牒 | | 68,000円 | 講談社 | ●木 菟 図 | 家 光
沢 庵 | 59,000円 | 講談社 |
| ●重文 枯木鳴鶴 | 宮本二天 | 62,000円 | 講談社 | ●鶴 図 | 宮本武蔵 | 70,000円 | 講談社 |
| ●重文 紅梅鳩図 新免武蔵守 玄信筆 | | 48,000円 | 講談社 | ●心 神 | 横山大観 | 328,000円 | 講談社 |
| ●布袋観關鶏図 | 宮本二天 | 39,000円 | 講談社 | ●独 行 道 | 宮本武蔵 | 48,000円 | 講談社 |
| ●戦 氣 | 宮本武蔵筆 | 52,000円 | 講談社 | ●国宝 萬葉集 | 久松潜一 | 58,000円 | 講談社 |

☆お求め・お問合せは、お近くの有隣堂へどうぞ……

本は心の旅路  有隣堂

伊勢佐木店／ユーリンファボリ／横浜駅西口店
藤沢店／厚木店／川崎さいか屋店／町田さいか屋店

ヨコハマ馬車道  ユーリンファボリ ●一般書籍 ●インテリア小物
●舶来万年筆 ●画材・デザイン用品
●オーディオ ●ギャラリー

大切なお金で——
上手なお買い物…横浜三越



横浜三越 5階 美術ギャラリー

日本画・洋画など世界の一流作家による
展覧会を毎週開催致しております。



月曜定休

〒220 横浜市西区北幸1-2-7
電話(045)312局1111(大代表)

望む、比較。

貯蓄の方法を厳しく選択したい時代です。
1分1厘の違いが、結果に大きな差をつくります。
元金が大きければ大きいほど、なおさらのこと。
東洋の貸付信託を、あらゆる角度から
比較されるよう望みます。

東洋信託銀行

横浜支店（横浜駅西口前）(045)311-2421

まとまったお金を加速度をつけてふやす。――

東洋の 貸付信託

- 元金保証 ●一万円単位
- 無記名式もあります。
- 優扱いならお一人元金300万円まで無税。
- お近くの郵便局からもお申し込みになれます。
(無料で送金できる振替用紙をご請求下さい)

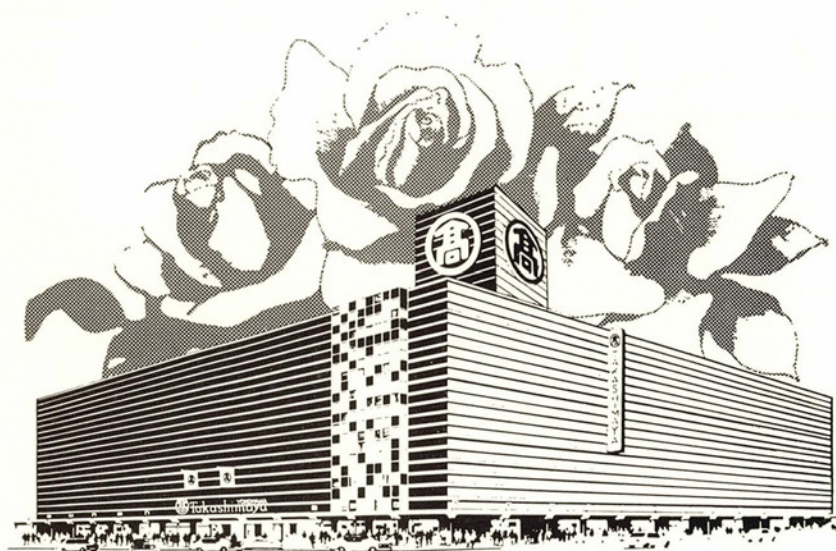
積立に最適な――

東洋の 金銭信託

- 元金保証 ●1回五千円以上
- ご都合に合わせて満期日が決められます。
- 優扱いならお一人元金300万円まで無税。
- ふやしながら、なしくずし的につかえます。

お問合わせは、横浜支店まで、
お電話で。

確かな暮らしをおとどけする バラの横浜タカシマヤ



水曜定休
横浜高島屋
電話 / 横浜045 (311) 1251

発行 神奈川県美術展委員会

表紙デザイン 渡辺豊重

製作・大塚巧藝社

